シュレージエンのドイツ人の被追放過程

瀧川　貴利

要約

シュレージエンは、オーデル・ナイセ川以東で最大の面積と人口を有していた。第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約の民族自決の原則により、ポーランド回廊がつくられた。また 1920 年にフルチナー・レントヒェンが、ドイツ領からチェコスロヴァキア領になった。そして 1921 年 10 月 20 日に住民投票があり、ポーランドになった地域があり、オストオーバーシュレージエンと呼ばれるようになった。

グラーツのシュレージエンのドイツ人の体験報告によると、グラーツではソ連兵の暴行などが相次ぎ、1945 年 5 月 10 日に 2 時間以内に荷造りをしなければならなかった。またドイツ人は白い腕章をつけなければならなかった。1946 年の 3 月 3 日に駅に集合させられ。最終的に国外追放された。そしてその銀行員はオスト・フリースラントのオーリッヒに輸送された。

シュレージエンのドイツ人は、第二次世界大戦後、ドイツ連邦共和国やドイツ民主共和国などに追放された。現在、シュレージエンの大部分はポーランド領になり、一部はチェコ共和国。そしてゲルリッツ周辺がドイツ連邦共和国領のザクセン州とブランデンブルク州になっている。

Abstract

The German territory extended beyond the Oder-Neisse Line before the World War II. Silesia was the most populated and industrial area, which was located in the eastern part of Germany. .

After the World War Ⅰ, the principle of self-discipline has applied to the Eastern Europe. Thus Poland gained the Polish Corridor. In 1920 Hultschiner Ländchen became territories of Czechoslovakia. As the result of the referendum October 20th1921, Ostoberschlesien belonged to Poland.

According to the bank manager’s report, the Soviet soldiers raped German women in the World War II. Germans must have packed their things in two hours. They must have gathered at the station and been expelled.

Germany has lost all these territories, which was located beyond the Oder-Neisse Line. Germans in the areas were expelled from the area. Most of Silesia belong to Poland, and some of them belong to the Czech Republic. The area around Görlitz belongs to Saxony and Brandenburg in Germany.

Key words　　German refugees, the Oder-Neisse Line, Silesia, Poland

はじめに

第二次世界大戦以前のドイツの領土は、オーデル・ナイセ線以東にまで領土が広がっていた。しかしドイツは第二次世界大戦の結果、これらの領土をすべて失った。シュレージエン（英語名シレジア。ポーランド語名シロンスク）(ドイツ語名 Schlesien。英語名 Silesia)は、オーデル・ナイセ線以東では最大の領土、最大の人口を有していて、工業が発達していた地域だった(1)。

シュレージエンのドイツ人の被追放過程の研究として、永岑三千輝『独ソ戦とホロコースト』の「四　シュレージエンからの疎開、逃亡、そして追放」があげられる(2)。独ソ戦の最終局面という観点から、1944 年から 1945 年のシュレージエンのブレスラウ（Breslau）の攻防戦について書かれている。しかしブレスラウ周辺の戦争状況についてはわかるものの、第二次世界大戦以前のシュレージエンの経済状況やシュレージエンのその他の地域の被追放状況については解明されていない。また川喜田敦子の『東欧からのドイツ人の追放二〇世紀の住民移動の歴史のなかで』は,外交史などの見地から記述している(3)。

本論文では、まず東欧のシュレージエンは第二次世界大戦以前どのような工業が盛んであったのかを明らかにし、またグラーツ(Glatz)の体験報告を使い、被追放過程がどのように行われたかを明らかにしたい。

Ⅰ　前史

もともと多くのゲルマン民族（ゲルマン人）などが、現在の北欧や東欧などに居住していた。ゲルマン民族は、インド・ヨーロッパ語族に属している。ゲルマン民族の原住地は、スカンディナヴィア半島から北ドイツだったとされる。ゲルマン民族は北欧神話を生み出し、ルーン文字を使用していた(4)。ゲルマン民族のほかには、ケルト族（ケルト人）がいた。ケルト人もインド・ヨーロッパ語族の一つで、紀元前 10 世紀から紀元前 8 世紀まで原住地のライン川、エルベ川、ドナウ川間からでて、紀元前 5 世紀から紀元前 4 世紀まで、ガリア、ブリタニアに広まり、紀元前 3 世紀にはアナトリアにも至った。ブリテン島にはケルト系のスコット人、ケルト系のブリトン人が居住していた。またブリテン島にはピクト人がいた。さらに紀元前 7 世紀から紀元前 3 世紀にかけてイラン系遊牧民のスキタイ、紀元前 7 世紀から紀元後 4 世紀にかけてイラン系遊牧民のサルマタイ、インド・ヨーロッパ語族のトラキア人、インド・ヨーロッパ語族のスラヴ民族、バルト語族、フン族、フィン・ウゴル語族、トルコ系遊牧民のブルガール人、マジャール人、紀元後 9 世紀から紀元後 12 世紀にかけてトルコ系遊牧民族のペチェネグ、紀元後 5 世紀から紀元後 10 世紀にかけてトルコ系民族のハザール、紀元後 6 世紀から紀元後 9 世紀にはアヴァール人などもいた。スラヴ系ではロシア人、ポーランド人、ウクライナ人、ベラルーシ人、チェコ人、カシューブ人(Kaschube)、ヴェンド人(Wende)（ソルブ人(Sorbet)）、プロイセン人などがいた。フィン・ウゴル語族には、フィン人、サーミ人、エストニア人、マジャール人（ハンガリ

一人）などがいる。またバルト語族にはラトヴィア人、リトアニア人がいる(5)。

375 年にフン族が東ゴート族の国を征服すると、西ゴート族はドナウ川を越え、ローマ帝国領内へ移動した。他の多くのゲルマン民族も移動を開始し、西ローマ帝国内に移動した(6)。フン族は、453 年のアッティラの死後、急速に衰退した。またスラヴ民族はもともとは、だいたいカルパティア山脈の北側、ヴィスワ川とドニエプル川（ウクライナ語名ドニプロ川）の中流域に住んでいた。6 世紀のアヴァール人の西進を受けて、スラヴ民族は移動した。

シュレージエンは、10 世紀末ポーランド、14 世紀にベーメン(Böhmen)（英語名ボヘミア(Bohemia)）の領土だった。12 世紀からドイツ人の東方植民がはじまり、ドイツ人はシュレージエンにも再進出し始めた。シュレージエンはオーデル川(die Oder)流域の開けた場所で、鉱工業が盛んな地域であった。シュレージエンは交通の要衝で、ライプツィヒ(Leipzig)、クラカウ(Krakau)からキエフ（ロシア語名）（ウクライナ語名キーウ）(Kiew)へ向かう道が通っていて、フランクフルト・アン・デア・オーダー（Frankfurt an der Oder）経由でシュテッティーン（シュテッティン）（Stettin）へ、ポーゼン（Posen）経由でダンツィヒ（Danzig）（ポーランド語名　グダニスク、グダンスク）と結ばれていた。またブレスラウは、エルベ川以東ではベルリンに次いで第二番目に大きな都市であった。ブレスラウ周辺では農業が盛んであり、商業の中心であった。またヴァルデンベルク(Waldenberg)、ランデスフート(Landeshut)などでは石炭や繊維産業が盛んであった。またオーバーシュレージエンは石炭や鉄鋼や亜鉛産業などが盛んであり、ルール工業地域に次ぐ規模であった。

シュレージエンは、1526 年にハプスブルク家の領土になった。1740 年から 1748 年のオーストリア継承戦争の際。1748 年 10 月アーヘンの和約によりプロイセンがシュレージエンの大半を獲得した。オーストリア側が保持したシュレージエンは、オーストリア・シュレージエン(Österreichisch-Schlesien)と呼ばれた。また 1756 年から 1763 年の間の七年戦争の際に、1763 年 2 月のフベルトゥスブルクの和約でプロイセンのシュレージエンの領有が再確認された。

このシュレージエンの領有をめぐるプロイセンとオーストリアの戦争はシュレージエン戦争と呼ばれる場合もある。第一次シュレージエン戦争は 1740 年から 1742 年に行われた。1742 年 7 月のベルリン条約により、プロイセンがシュレージエンの大部分を領有した。第二次シュレージエン戦争は 1744 年から 1745 年まで行われた。1745 年 12 月にドレスデンの条約でオーストリアがベルリン条約を確認した。第三次シュレージエン戦争は 1756 年から 1763 年までである。この結果、プロイセンのシュレージエンの大部分を獲得し、オーストリアはシュレージエンの一部を保持した。オーストリア・シュレージエンは第一次世界大戦後、メーレン・シュレージエン(Mähren-Schlesien)に名前が変更された。メーレン(Mähren)とは、英語ではモラヴィア(Moravia)という。

Ⅱ　シュレージエンのドイツ人の被追放過程

ヴェルサイユ条約では、民族自決の大義名分のもと領土が一方的に定められた。ポーランドはポーランド回廊(the Polish Corridor)を要求し、海へのアクセスを可能にした。さらに

ポーランドはオストプロイセン(Ostpreußen)南部、オーバーシュレージエン（Oberschlesien）の一部の領土すら要求した。この結果、第一次世界大戦後のドイツは、本国とオストプロイセンが分離する飛び地国家になった。さらに国際連盟管理下の自由市（自由都市）(der Freistaat)ダンツィヒが、1920 年に誕生した。またメーメル(Memelgebiet, Memel)とザール地方(Saargebiet)は 1920 年に国際連盟の管理下にあった。さらにシュヴェンテン(Schwenten)は 1919 年 1 月から 8 月まで独立していたが、ドイツに加入した。ドイツはデンマークにより 1920 年にノルトシュレースヴィヒ(Nordschleswig)を失い、フランスによりエルザス・ロートリンゲン (Elsaß-Lothringen)、（英語名、フランス語名　アルザス・ロレーヌ(Alsace-Lorraine)を失い、ベルギーによりオイペン・マルメディー(Eupen-Malmedy)を失った(7)。

1919 年にシュレージエンは、ニーダーシュレージエン（Niederschlesien）とオーバーシュレージエンの州にわかれていた。ニーダーシュレージエンの州都（die Hauptstadt）はブレスラウであり、オーバーシュレージエンの州都はオッペルン（Oppeln）であった。

オーバーシュレージエンは、ドイツ人が多数派を占めるが、ポーランド人も住む地域であった。1921 年 3 月 20 日の住民投票では、ドイツの所属を求める割合が 59.6%、ポーランドの所属を求める割合が 38%であった。このため 1921 年 10 月 20 日にグライヴィッツ（Gleiwitz）、オッペルンを含む地域はドイツ領になり、タルノヴィッツ（Tarnowitz）やカトヴィッツ（Kattowitz）を含む地域はポーランド領になった。ポーランドになった地域は、オストオーバーシュレージエン（Ostoberschlesien）と呼ばれるようになった。また 1920 年にフルチナー・レントヒェン（Hultschiner Ländchen）が、ドイツ領からチェコスロヴァキア領になった(8)。こうしてシュレージエンの大部分はドイツにのこったものの、一部はポーランドやチェコスロヴァキアの領土になった。この結果、重要な工業地帯の一部がポーランド領になった。

ニーダーシュレージエンとオーバーシュレージエンは、ナチス期にシュレージエンになった。その後シュレージエンは、ニーダーシュレージエンとオーバーシュレージエンに再び分離された。ニーダーシュレージエンの大管区の州都（die Gauhauptstadt）はブレスラウであった。またオーバーシュレージエンの大管区の州都はカトヴィッツであった。

1937 年の時点でシュレージエンには、ドイツ人が 957 万 5000 人居住していた。そのうちオーバーシュレージエンにはツィッタウ(Zittau)の都市と郡を含めて 305 万 3000 人、ニーダーシュレージエンには 152 万 3000 人が居住していた。またポーランド領のオストオーバーシュレージエンには 33 万人が居住していた。またポーランド領になった（Östl. Teschener Schlesien）には 4 万人が居住していた(9)。

1939 年の時点のシュレージエンの労働力についての調査によると農業労働者は約 90 万人であり、工業労働者は 72 万 9800 人であった。工業労働者のうち繊維工業では 15 万 9300 人（全体の 21.83%）、建設業では 13 万 7600 人（18.85%）、木材，製紙工業では 10 万 5000 人（14.39%）、食品工業では 9 万 1800 人（12.58%）、石材と土壌産業では 6 万 1400 人（8.41%），機械製造で 4 万 5900 人（6.29%）、光学器械部門と電気工学で 1 万 7400 人（2.38%）、化学で 6500 人（0.89%）であった(10)。

また宗派については、1937 年 12 月 31 日の時点でニーダーシュレージエンのドイツ人 305 万 3000 人のうちプロテスタントが 200 万人（65.5%）、カトリックが 91 万 6000 人（30%）、その他が 13 万 7000（4.5%）である。オーバーシュレージエンのドイツ人 152 万 3000 人のう

ちプロテスタントが 14 万 8000 人（9.7%）、カトリックが 135 万 7000 人（89.1%）その他の宗教が 1 万 8000 人（1.2%）だった。ポーランドのオーバーシュレージエンのドイツ系住民 37 万人のうちプロテスタントが 5 万 4000 人（14.6%）、カトリックが 31 万 6000 人（85.4%）であった(11)。

オーバーシュレージエンのグライヴィッツの放送局が、ポーランドの制服を着用したドイツの親衛隊(Schutzstaffel: SS)により攻撃された。ドイツ側はポーランドの仕業と発表した。こうして 1939 年 9 月 1 日にドイツはポーランドと自由市ダンツィヒを攻撃した。

ソ連とポーランドはともにスラヴ系ではあるが、歴史的に様々な問題を抱えていた。1918 年にはポーランドが独立した。1920 年から 1921 年までポーランド・ソヴィエト戦争が起こった。1921 年 3 月のリガ条約により、ポーランドはロシアからウクライナの一部、ベラルーシの一部を獲得した。1939 年にソヴィエト連邦共和国はドイツとともに、ポーランドを分割占領した。さらにカティンの森事件があり、ポーランドとソ連の関係は悪化した。カティン事件とは、ソヴィエト連邦共和国のカティンの森でポーランド軍将校ら 1 万 4552 人、旧体制関係者 7305 人がソヴィエト連邦共和国により殺害された事件であった。1943 年にドイツ軍により発見された。赤十字も調査していたが、ソヴィエト連邦共和国は責任を否定した(12)。

1944 年 8 月から 10 月にかけてワルシャワ蜂起が起きた。ロンドンにあった亡命政府系の国内軍が自力解放を目指し、ソ連軍の接近に合わせて 8 月 1 日に蜂起した。しかしドイツ軍の反撃にあい、蜂起軍は 10 月 2 日に降伏した。こうして亡命政府の政治的権力はなくなっていった。1945 年 1 月 25 日にはアウシュヴィッツ（Auschwitz）（ポーランド語名　オシフィエンチム）が解放された。アウシュヴィッツは、シュレージエンの近くに位置する都市である。第一次世界大戦前は、オーストリア=ハンガリー帝国領内で、第一次世界大戦後にポーランド領になった。

シュレージエンは自然増により、1939 年から 1943 年の間に 23 万 2000 人増加した。さらにシュレージエンは空襲からの疎開民を 45 万人にも受け入れていた。このためシュレージエンは 1939 年の 5 月 17 日の 459 万 2000 人から 1944 年の 2 月と 3 月には 471 万 8000 人に増加していた(13)。すでに 1941 年にソ連はすでにポーランドの東部国境をカーゾン線までの国境やバルト三国、フィンランドのカレリア地方、ルーマニアのベッサラビア地方を要求していた。最終的にはポツダム会談で、オーデル・ナイセ線が認められた(14)。

シュレージエンの被追放民の証言集としては、ヨーゼフ・ヘンケ(Josef Henke)の「オストプロイセンとシュレージエンからの脱出。4 つの体験報告」がある(15)。このなかにニーダーシュレージエンのグラーツの銀行員、後の銀行の支店長の体験報告がある。それによると、「1945 年 5 月 8 日から 9 日にかけてグラーツは支配された。フランケンシュタイン(Frankenstein)から避難していた娘 2 人がソ連兵 4 人によって暴行された。5 月 10 日に 2 時間以内に荷造りをしなければならなかった。5 月 28 日にポーランドの旗が揚がり、ポーランドの恐怖政治が始まった。ドイツ人は白い腕章をつけなければならなかった。銀行員の国外追放は、最終的に 1946 年の 3 月 3 日に行われた。銀行員は駅に集合させられ。イギリス占領地区にあるオスト・フリースラント(Ostfriesland)のオーリッヒ(Aurich)に輸送させられた。」とある。このことから比較的順調にソヴィエト連邦からポーランドへの占領統治体制の移行が順調であったことと、ドイツ人の追放が電車などを利用していたことな

どがわかる。ロシア人やポーランド人による性的暴行や掠奪などの犯罪行為が明確にあったことなどがわかる

第二次世界大戦後、シュレージエンの大部分がポーランド領になった。1920 年にフルチナー・レントヒェンが、ドイツ領からチェコスロヴァキア領になった。シュレージエンの残りは、ドイツ民主共和国領になった。1991 年に東西ドイツが統一され、現在シュレージエンの大部分はポーランド領であり、一部はチェコ共和国。そしてドイツ連邦共和国領のザクセン州（Sachsen）とブランデンブルク州（Brandenburg）に所属している。

Ⅲ　結論

シュレージエンは、オーデル・ナイセ川以東で最大の面積と人口を有していた。第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約の民族自決の原則により、ポーランド回廊がつくられた。また 1920 年にフルチナー・レントヒェンが、ドイツ領からチェコスロヴァキア領になった。そして 1921 年 10 月 20 日に住民投票があり、ポーランドになった地域があり、オストオーバーシュレージエンと呼ばれるようになった。

グラーツのシュレージエンのドイツ人の体験報告によると、グラーツではソ連兵の暴行などが相次ぎ、5 月 10 日に 2 時間以内に荷造りをしなければならなかった。またドイツ人は白い腕章をつけなければならなかった。1946 年の 3 月 3 日に駅に集合させられ、最終的に国外追放された、そしてオスト・フリースラントのオーリッヒに輸送された。

シュレージエンのドイツ人は、第二次世界大戦後、ドイツ連邦共和国やドイツ民主共和国などに追放された。現在、シュレージエンの大部分はポーランド領になり、一部はチェコ共和国。そしてゲルリッツ周辺がドイツ連邦共和国領のザクセン州とブランデンブルク州になっている。

(1)オーデル・ナイセ線とは、オーデル川とナイセ川(die Neiße)のことである。ドイツ語では、オーダー川・ナイセ川という。オーデル・ナイセ線の起源については、 Terry, Sarah Meiklejohn, *Poland's Place in Europe. General Sikorski and the origin of The oder-neisse Line, 1939-1943*, Princeton University Press, 1983 p. xvi や Joachim Nolywaika, *Flucht und Vertreibung der Deutschen. Die Tragödie im Osten und im Sudetenland*, Arndt Verlag, 1996
を参照のこと。

(2)永岑三千輝「独ソ戦とホロコースト」日本経済評論社、2001 年

(3)川喜田敦子『東欧からのドイツ人の追放　二〇世紀の住民移動の歴史のなかで』白水社、2019 年

(4)ゲルマン民族については、タキトゥス　泉井久之助訳注　『ゲルマーニア』　岩波文庫　1979 年　改訳、タキトゥス　國原吉之助　訳　『ゲルマニア　アグリコラ』ちくま学芸文庫　1996 年を参照。またイギリスについては、タキトゥス　國原吉之助　訳　『ゲルマニア　アグリコラ』のアグリコラを参照のこと。

北欧神話については、『エッダー古代北欧歌謡集』　谷口幸男　訳　新潮社版　1973 年、松谷　健二『エッダ　グレティルのサガ』中世文学集III　ちくま文庫 1986 年、ドロシー・ハスフォード作(Dorothy Hosford)『神々のとどろきー北欧神話ー(Thunder of the gods)』山室静訳　岩波書店 1976 年などを参照のこと。

(5)スキタイ（スキュティア）については、ヘロドトス　松平千秋『歴史（中）』の　巻四　（メルポメネの巻）岩波文庫　1972 年を参照のこと。ブルガール人はもともとトルコ系遊牧民族だが、しだいに住民の多数派のスラヴ人と同化していった。またラウジッツ(die Lausitz)地方のヴェンド人の伝説に基づいた物語に、オトフリート・プロイスラー　中村浩三訳『クラバート』1980 年　偕成社。Otfried Preußler, *Krabat*, Thienemann Verlag, 1981 がある。ラウジッツ地方とは、ザクセン、ブランデンブルク、シュレージエンにまたがる地域である。オトフリート・プロイスラーは、ズデーテンラントのライヘンベルク（ライヒェンベルク）（現在のチェコ共和国リベレツ）(Reichenberg)出身で、第二次世界大戦後バイエルン州に移住した。オトフリート・プロイスラーは、ホッツェンプロッツなどの作品でも知られている。オトフリート・プロイスラー中村浩三訳『大どろぼうホッツェンプロッツ』偕成社 1975 年。Otfried Preußler, *Der Räuber Hotzenplotz*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1962. オトフリート・プロイスラー中村浩三訳『大どろぼうホッツェンプロッツ』偕成社 1975 年。Otfried Preußler, *Neues vom Räuber Hotzenplotz*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1969　オトフリート・プロイスラー中村浩三訳『大どろぼうホッツェンプロッツ三たびあらわる』偕成社 1975 年 Otfried Preußler, *Hotzenplotz 3*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1973。大どろぼうホッツェンプロッツおたからゲームブック　偕成社 2019 年などがある。またポーランド史については伊東孝之　井内敏夫　中井和夫『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社　1998 年を参照のこと。

(6) ゲルマン人の大移動については、エドワード・ギボン　中野好夫　朱牟田夏雄訳『ローマ帝国衰亡史　4　西ゴート族侵入とテオドシウス』　ちくま学芸文庫　1996 年、エドワード・ギボン　朱牟田夏雄訳『ローマ帝国衰亡史　5　アッティラと西ローマ帝国滅亡』　ちくま学芸文庫　1996 年を参照のこと。

(7) 国際連盟管理下の自由市（自由都市）ダンツィヒだが、ドイツ語の(der Freistaat)の(der Staat)とは、本来国家をあらわす。このため(der Freistaat)は共和国と訳すのが正しい。一方自由ハンザ都市ハンブルク(Freie und Hansestadt Hamburg)や自由ハンザ同盟都市ブレーメン(Freie Hansestadt Bremen)など都市の場合はドイツ語では(die Stadt)である。しかし慣例に従って、自由市（自由都市）ダンツィヒと訳している。

オストプロイセンでは、２つの地域で住民投票が 1920 年 7 月 11 日に行われた。1 つの地域では 97.5%がドイツ、2.5%がポーランドを選んだ。もう 1 つの地域では 93%がドイツ、7%がポーランドであった。このためオストプロイセンは全域がドイツになった。

またリトアニアは 1923 年にメーメルを占領した。国際連盟は 1925 年に自治を条件にリトアニアの占領を認めた。1939 年 3 月にドイツにメーメルは返還された。1945 年にメーメルはリトアニア・ソヴィエト社会主義共和国の領土となり、現在リトアニア共和国領のクライペダになっている。メーメルはドイツ国歌の第 1 番にマース川からメーメル川まで(Von der Maas bis an die Memel)とある。このドイツ国歌はワイマール共和国では正式な国家とされていたが、現在のドイツ国歌では第 3 番のみが公式なものとされている。

ザール地方は 1920 年から 1935 年まで国際連盟の管理下にあった。1935 年の住民投票により、ドイツに復帰した。1945 年にフランスがザール地方を占領し、フランスの管理下に入った。しかし 1957 年の住民投票でドイツに復帰した。ザールラント(das Saarland)と名称を変え、ドイツ連邦共和国の 16 州の 1 州を構成している。ザールラントの州都はザールブリュッケン(Saarbrücken)である。

(8) 近藤潤三『統一ドイツの外国人問題』，木鐸社 356-360 頁 2002 年。他にも、第二次世界大戦以前のポーランドにいたドイツ系ポーランド人や、ドイツ帝国の領土にいたマズール人やカシューブ人などのアウトホトーネン（die Autochthonen）の問題があった。また 1955 年から 1959 年にかけて国際赤十字社の援助により、ドイツ人やドイツ系住民はドイツ連邦共和国に 25 万人、ドイツ民主共和国に 4 万人移住した。ドイツ民主共和国は 1950 年 7 月 6 日のゲルリッツ条約でオーデル・ナイセ線を認めた。ドイツ連邦共和国は 1970 年 12 月のワルシャワ条約でオーデル・ナイセ線を認めた。さらにドイツ連邦共和国はドイツ統一後の 1990 年 11 月 14 日にオーデル・ナイセ線を認めた。またシュレージエン史に関しては、Joachim Bahlcke, *Schlesien und die Schlesier*, Langen Müller, 5. Auflage,2006 を参照のこと。

(9) Gerhard Reichling, *Die deutschen Vertriebenen in Zahlen. Teil I Umsiedler, Verschleppte, Vertriebene, Aussiedler 1940-1985*, Kulturstiftung der deutschen Vertriebenen, 1995, S. 17.

(10) Jörg Maier, Germano Tullio, *Die soziale und wirtschaftliche Einglieregung von Flüchtlingen und Heimatvertriebenen in Bayern*, 1996, S. 29

(11) Gerhard Reichling, *Ebenda*, S. 20.

(12)紀平英作『パクス・アメリカーナへの道　胎動する戦後世界秩序』山川出版社　1996 年 p143。伊東孝之　井内敏夫　中井和夫『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社 1998 年　p269 ソヴィエト連邦は１９９０年に公式にカティン事件の責任を認めた。またロシア人とポーランド人は同じスラヴ系の民族であるが、ロシアは東スラヴに属し、キリル文字を使う。ロシアの主な宗教は東方正教のロシア正教であり、他にはイスラム教やウクライナ正教などがある。ソヴィエト連邦時代は、ロシア正教は弾圧されていた。一方ポーランド人は西スラヴに属し、ラテン文字を使う。ポーランドの主な宗教はカトリックであり、他に東方正教のポーランド正教などがある。ロシアとポーランドは歴史的に複雑な関係があった。ポーランド王国は 1772 年、1793 年、1795 年の三回ポーランド分割を受けた。1772 年の第一次ポーランド分割ではロシア、プロイセン、オーストリアが分割した。これによりロシアは（G. Livland）（Gouv. Weißrußland）（リヴォニアの一部とベラルーシの東部）を獲得した。このためポーランドとロシアは歴史的に複雑な関係を抱えていた。1793 年はロシアがベラルーシの中央部とウクライナ（Gouv. Minsk）（Gouv. Wolhynien）（Gouv. Kiew）（Gouv. Podolien）を併合した。1795 年にはポーランドが消滅した。ロシアは（Gouv. Litauen）（Gouv. Wolhynien の一部）1807 年のティルジット条約により、1807 年から 1815 年までワルシャワ大公国。1815 年から 1831 年までポーランド王国（Kongreß-Polen）。ロシア皇帝がポーランド王を兼ねた。 1830 年から 1831 年にかけてポーランド騒乱が起きた。このときショパンはエチュード『革命』を作曲した。また 1863 年にはポーランド反乱が起きた。

(13) Bundesministerium für Vertriebene, Flüchtlinge und Kriegsgeschädigte, *Dokumenntation*

der Vertreibunng der Deutschen aus Ost-Mitteleuropa　I, Deutscher Taschenbuch Verlag, 1984 , 4E-5 E.
(14) 紀平 上掲書 p59, p114-p116, p143-p144。川喜田　上掲書　p48。
(15) Josef Henke, ‘Exodus aus Ostpreußen und Schlesien.Vier Erlebnisberichte‘,　Wolfgang Benz, “ *Die Vertreibung der Deutschen aus dem Osten.Ursachen, Ereignisse, Folgen.*“, Fischer Taschenbuch Verlag, 1995, S. 127-130.

,

文献

邦語

伊東孝之　井内敏夫　中井和夫『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社　1998 年
エドワード・ギボン　中野好夫　朱牟田夏雄訳『ローマ帝国衰亡史　4　西ゴート族侵入とテオドシウス　』　ちくま学芸文庫　1996 年
エドワード・ギボン　朱牟田夏雄訳『ローマ帝国衰亡史　5　アッティラと西ローマ帝国滅亡』　ちくま学芸文庫　1996 年
オトフリート・プロイスラー　中村浩三　訳『クラバート』1980 年　偕成社。Otfried Preußler, *Krabat*, Thienemann Verlag, 1981
オトフリート･プロイスラー　中村浩三　訳『大どろぼうホッツェンプロッツ』偕成社 1975 年。Otfried Preußler, *Der Räuber Hotzenplotz*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1962.
オトフリート･プロイスラー　中村浩三　訳『大どろぼうホッツェンプロッツ』偕成社 1975 年。Otfried Preußler, *Neues vom Räuber Hotzenplotz*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1969
オトフリート・プロイスラー　中村浩三　訳『大どろぼうホッツェンプロッツ三たびあらわる』偕成社 1975 年 Otfried Preußler, *Hotzenplotz 3*, Thienemann Verlag, Stuttgart, 1973
オトフリート・プロイスラー　トリップ・F.J.　絵 ヴェーバー・マティアス　構成　若松宣子　訳『大どろぼうホッツェンプロッツ　おたからゲームブック』　偕成社　2019 年
川喜田敦子　『二〇世紀の住民移動の歴史のなかで　東欧からのドイツ人の追放』　白水社　2019 年
紀平英作　『パクス・アメリカーナへの道　胎動する戦後世界秩序』　山川出版社　1996 年
タキトゥス　泉井久之助　訳注　『ゲルマーニア』　岩波文庫　1979 年　改訳
タキトゥス　國原吉之助　訳　『ゲルマニア　アグリコラ』ちくま学芸文庫　1996 年
谷口幸男　訳『エッダー古代北欧歌謡集』　　新潮社版　1973 年
ドロシー・ハスフォード(Dorothy Hosford)作　山室静　訳『神々のとどろきー北欧神話ー(Thunder of the gods)』　岩波書店 1976 年

永岑三千輝　『独ソ戦とホロコースト』日本経済評論社　2001 年
ヘロドトス　松平千秋　訳『歴史（上)』　岩波文庫　1971 年
ヘロドトス　松平千秋　訳『歴史（中)』　岩波文庫　1972 年
ヘロドトス　松平千秋　訳『歴史（下)』　岩波文庫　1972 年
松谷　健二『エッダ　グレティルのサガ』中世文学集III　ちくま文庫　1986 年

英語

Terry, Sarah Meiklejohn，*Poland's Place in Europe. General Sikorski and the origin of The Ode-r-Neisse Line, 1939-1943,* Princeton University Press, 1983

ドイツ語

Wolfgang Benz*, Die Vertreibung der Deutschen aus dem Osten.Ursachen, Ereignisse, Folgen.*, Fischer Taschenbuch Verlag, 1995
Bundesministerium für Vertriebene, Flüchtlinge und Kriegsgeschädigte,　*Dokumenntation der Vertreibunng der Deutschen aus Ost-Mitteleuropa　I*, Deutscher Taschenbuch Verlag, 1984
Gerhard Reichling, *Die deutschen Vertriebenen in Zahlen. Teil I Umsiedler, Verschleppte, Vertriebene, Aussiedler 1940-1985*, Kulturstiftung der deutschen Vertriebenen, 1995
Joachim Bahlcke, *Schlesien und die Schlesier*, Langen Müller, 5. Auflage,2006
Joachim Nolywaika, *Flucht und Vertreibung der Deutschen. Die Tragödie im Osten und im Sudetenland*, Arndt Verlag, 1996
Jörg Maier und Germano Tullio, *Die soziale und wirtschaftliche Eingliederung von Flüchtlingen und　Heimatvertriebenen in Bayern*, Iudicium Verlag, 1996）。